

令和3年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立蒲田学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 教務担当主幹教諭
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭（教務担当）、主幹教諭（生活指導担当）、主幹教諭（進路指導担当）、主任養護教諭 計8名
- (4) 協議委員の構成
蒲田本町一丁目町会長、NPO 法人ピボットフット理事長、田進ゼミ池上校専務取締役、学校法人片柳学園法人本部総務課長、蒲田東特別出張所長、大田区立蒲田中学校長、同窓会副会長、PTA 会長、都立高校元校長（キャリアコンサルタント）、元教育庁教育監（大学理事） 計10名

2 令和3年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和3年6月29日（火）内部委員8名、協議委員7名
協議委員委嘱、評価委員選出、校内授業視察
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明
 - 第2回 令和3年10月8日（金）内部委員8名、協議委員7名
これまでの教育活動に関する報告、校内授業視察
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議
 - 第3回 令和4年2月17日（木）内部委員8名、協議委員8名
学校評価の結果、これまでの教育活動に関する報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和2年10月8日（金）内部委員2名、評価委員1名
学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和4年2月17日（木）内部委員2名、評価委員2名
今年度の学校評価アンケートの集計結果の分析、考察

3 学校運営連絡協議会による学校評価

- (1) 学校評価の観点
学習指導、生活指導、進路指導、保健指導・美化活動、体罰防止・いじめ防止、課程・地域との連携
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・10月	全校生徒	対象：366人	回収：360人	回収率：98%
・10月	保護者全員	対象：366人	回収：236人	回収率：66%
・11月	地域・住民	対象：70人	回収：63人	回収率：90%
・11月	教職員	対象：43人	回収：43人	回収率：100%
- (3) 主な評価項目
学習指導、生活指導、進路指導、保健指導・美化活動、体罰防止・いじめ防止、課程・地域との連携、ライフワークバランス
- (4) 評価結果の概要
 - (ア) 学習指導
学習においては、一年間を通して、時差通学及び短縮授業を継続し、結果として、学習リズムが保たれ、落ち着いて学習に取り組む環境が醸成された。個々に支援が必要な生徒への指導や補習など、きめ細やかな対応に取り組んだことにより、学力に応じた指導、手厚い指導がされていると感じた生徒の割合が高まった。授業規律については、教職員が共通に意識して指導にあたり、保護者からも高い評価を得ることができた。
 - (イ) 生活指導・学校生活
新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校行事等が中止となるなど、約2年が経過しているが、新しい生活様式の定着や教育活動の工夫等により、生徒にとっては学校生活への満足度は高

くなっている。授業規律が守られ、登校時の立ち番指導・遅刻防止指導などの取組や教育相談体制の確立により、生徒のいじめ防止に向けた学校に対する評価は、生徒・保護者ともに高い評価を得ている。引き続き、いじめや体罰のない、生徒が安心して学校生活を送れるよう、今後も引き続き取り組んでいく。

(ウ) 進路指導

年間を通して計画的で丁寧な進路指導を行ってきたことに対し、生徒、保護者ともに高い評価を示している。進路情報の提供や進路ガイダンスを充実させることができ、評価が上がった。また、生徒の能力や特性に応じた進路指導を早期から行うことにより、保護者への理解が深まり、肯定的な回答の割合が高まった。個に応じた丁寧な指導を継続させ、学校の魅力づくりにつながるよう、生徒の自己実現に向けた取組を進めていく。

(エ) 教育相談・美化指導

SC（スクールカウンセラー）1名と2名のYSW（ユースソーシャルワーカー）との相談活動や外部機関との連携を深める等、生徒の自立のための支援を組織的に行っていることで、生徒・保護者からの評価は高水準である。学校の学習環境についても、コロナ禍における消毒や換気に細心の注意を払って実施しているため、評価は高い。

(オ) 地域との連携

地域からのアンケート対象を、来校者から、近隣施設や住民と変更をしたため、単純な比較は難しい。来年度は地域の行事等が開催されれば、生徒がボランティアとして参加し、多くの地域の方々と交流し、地域に貢献させる。地域の中にある本校をよく知っていただけるよう、学校からの情報を配信していく。

(5) 評価結果の分析・考察

本校では、新しい生活様式に向けたガイドラインに基づき、感染症対策を講じ、生徒が学校生活に前向きに取り組めるよう、細心の注意を払って教育活動を進めてきた。しかしながら、今年度も、新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置等により、分散登校や学校行事等の延期や中止、部活動の制限など、教育活動への影響があった。その一方で、ICTやオンラインを活用した授業の工夫や双方向オンライン授業に向けた取組などの環境整備を行うことができた。

こうした状況下において、保護者からの肯定的意見の高さは教育活動への理解と協力のおかげに他ならない。今後は、各項目について、数値や意見等の分析を踏まえ、次年度の学校経営に生かしていく。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校の特色ある教育活動（体験学習や習熟度・少人数授業）の実際を視察いただくとともに、分散登校中に配信したオンライン動画を見てもらうなどして、コロナ禍や新しい日常下での学習指導や生徒の様子を見て、助言をいただくことができた。また、本校の募集対策について、様々な立場から本校の魅力を発信するための方法について、地域との連携を図りながら中学校や入学を希望する中学生に対し発信していくなどの助言があり、学校経営の参考とした。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

地域から信頼される都立学校として、特色ある教育活動や指導の重点、生徒の様子など、本校の魅力をまだ十分に発信できていないなどの課題が明らかとなった。ホームページの発信だけでは、地域に在住する高齢者等には情報が行き届かないことも考えられるため、地域との連携をより一層深めたり、学校案内等（パンフレット）を配布したりするなどして、理解を得られるよう努力していく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

・「働き方改革」やライフ・ワーク・バランスを推進し、更なる業務縮減とペーパーレス化を進める。

(2) 学習指導

・教員の学習満足度が高まるよう、生徒の努力を認め、ほめ励ます指導を一層推進する。

(3) 特別活動

・コロナ終息後の学校行事の再興、新しい日常下での学校行事の在り方を考える。

(4) 生活指導

・生活規律や規範意識の醸成・基本的生活習慣の確立に向けた「日々の指導」を継続する。

・部活動の活性化に向けた取組の一層の推進を続ける。

(5) 進路指導

・3年間を見通したキャリア教育を推進し、自己実現の意識を高めさせ、計画的な進路指導を行う。

(6) 健康・安全

- ・生徒の健全な心と体づくりの取組を推進するため、精神科校医等学校医と連携した支援を行う。
- ・スクールカウンセラーやユースソーシャルワーカーと連携し、生徒に応じた自立支援を推進する。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 10人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
7	2					1

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

特になし